

嘉陵記行

初編

九

内務省圖書
 第一三九六番
 號.....部
 冊.....世

共三十冊
 百八十卷
 目錄
 府中道と記
 井の頭天宮の
 此遊漫草
 増恒世筆蹟

内閣文庫	
番號	和 29201
冊數	20 (1)
函號	177 1056

和書門
 二九二〇一
 一〇七四二
 二〇冊
 類號

177-1056

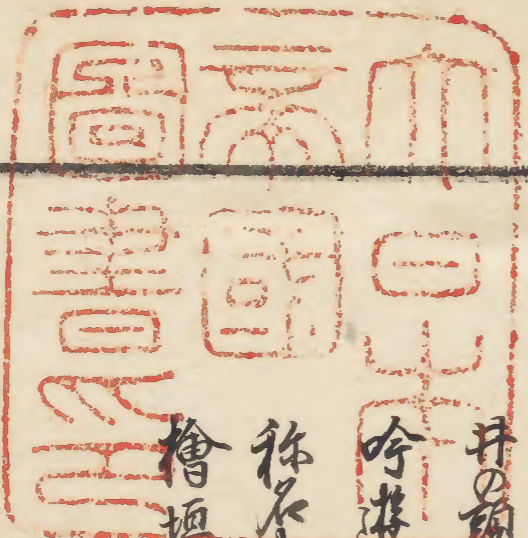
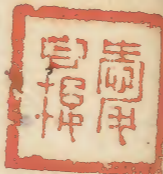


Kodak Gray Scale
 A 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 M 8 9 10 11 12 13 14 15
 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





嘉陵記行壹之卷目錄

府中道之記 附六所宮緣記
川崎系石傳

井の頭辨取天信の記

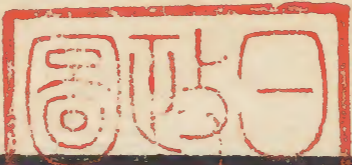
吟遊漫草 火金井府中再遊記
國分寺古瓦

祇名寺碑考

繪垣女車蹟考

明治十五年購求

府中地誌記



文正元

の友

睦月の十七日國府の六社の神



内野

扨打て新町通と行つて小名井窪といふ所の路の左に神明宮
立せり程少く多きを地蔵窪といふ所あり
路傍に地蔵あり
故小名井といふ

こゝ傍小路河全小澤村法橋の祠を行ぐと路こゝに城とて
代田村の所の在る所河全庭の飯山ありあま菜敷せり
こゝ小饅頭といふ一テ酒飯ありあま家五七テあり小名新窪と
いふ所の路の右より堀の内妙法寺へ行路あり今新馬場

と云ふをく小平山武者所日奉季重が住り交り今も平山
とり人の語る城吹おふ書つく交り

下布多あどいふと云ふところ布多の天神宮居る布多村

或神明帳か 今日本あどいふてまゝ布多古へ調布を遣り

調布里こと好奉事なりねど布多の文字よみて附合せ

まや見來か〜て城さすめ

下石原上石原あどいふこの道路は石原に在る石原と名付

まや〜西南林木のまづれふ玉川の向山をまよわたりて

下深谷上深谷あどいふ系あり上下深谷のは〜より〜

路林木に際を出没すものあり目か〜海をかたむ〜て

初〜洞達と〜て山壑の義城なる事城得南は大山と云ふ

まや山と連綿して富士の根城に渡りて崎つ西北を顧みれば

八王子子の権現秩父武甲法山と云ふこゝも富士根方の山と云ふ

る城あり〜秩父法山は程更しき外はほら〜山麓へ富士山に

か〜の氏戸は獲けてこの風景は〜今日登奉り余

西北風吹お〜寒さ〜あ〜て〜

あり〜て草城か〜り〜詩奇の

思〜か〜後〜止つて城

りまのれが道の尤も松林のりハ幡宮をせぬ
立神の北に城
まれば

府中宕新町中宕かとの差別あり涼風吹て除寒殊に方あり
こどもはれぬれをまじ六明神小ありてこ物も食めとて
詣る社ハ町の中程南側へ入口に制札あり文字消へく讀むべし
存の鳥居二基あり一ハ慶長十一年に鑿付る

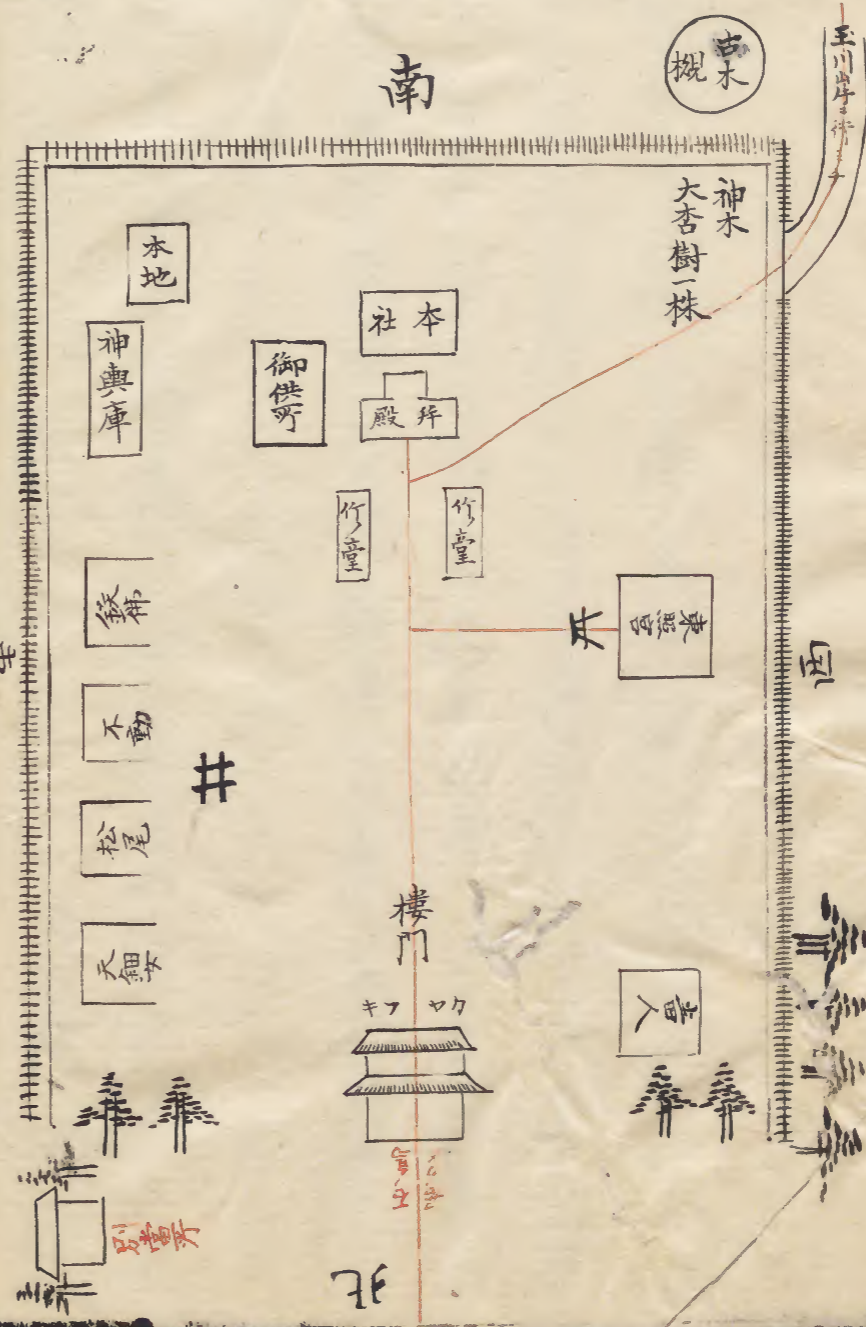
神祖の建せぬりつのはや地震に倒せく存の柱を本
も折せく高方より横ありてまを唯尤の柱の建り一ハ七人
の力を合せく建りこりハ樓門あり
此樓門ハ中代宿勅川侍屋敷の
一とありて修程も亦くそま

次ハ云々 本社北に白く鎮座し
別ハ元々 向て右の方
汗殿の廣

神祖の御宮ありあけの瑞籬をのりてありて
まも 御神志の日はあつれぬがこま各まを
なる洋殿の尤も御供あり築の隅に本地堂神輿庫を北に
法佛一軀ありてまのりもありてあん座像を右の服腹
破せり文字消付るありといども精膚をむべし
之のありて文字消付るが二行に三十字見ゆ
押して半まのりハも屋のたのり
此の佛ハ
い重忠松の松の

後ハ武花信詳

六所明神社頭畵



其二

大國魂大神即大己貴命
大己貴命別名七ノ二



二所明神坤方瑞籬の外氏家のしりより言ふ所存
 ここよけや木の古木ありてなかりなる也

二サバ大斗圍疣もよ
 八圍半疣の大サニ圍もよ
 全く折らぬあひびをねど
 折らぬと生きたる後の
 生気のきき修らう



このけやま五十年前まで大ある枝二三本ありて程多岐生せしが
 過一年大風より吹折るをてその後、幹より芽をふと生せむ
 されど全枯るもあむむと云ふも吹折るも大枝二圍を
 うるも木のつは折らるる 既程一箇の大本のゆへに
 りある後の丸の方ふぬ高寺の林に傷く亦おけは是改
 よいづるといふ程好むと七、所ありて玉川端よりこの
 道筋と御糸屋街道といふ所のいづれとあはれと云う

請考御年譜と図考の事

神祖二つ子ぬせむるをむくぬりても川原の所

兼をつくらせらるゝと近く

佐藤うまぬせの比も河兼を他とせればよき

これなき道あれはちかき

川原の瀬ありあれも水あり唯下流水あるかち

川原の石あり十餘町
まはれ共所を解のあり

白詩

山脚庵中更

有雪江流漫

処却毎氷

このまに神の
かろ

玉川ひろき二十間をう向しの山水よの方と一山をく下
流二山と一層高きと大丸山とくまのあつととて土人
向山といふ事書か向山をいふ或人の云一万歩の人磨奇
は向山といふ向しの名のよきまはれあつたのちかき

よめることごとくも実さうやいあやこのか川上より向し

よりまあり園々の海しより川向吉の宮本の跡より小山田

の宮といふことより顯眼奇にあつた昔代水とせよとめて

を後ぞぬ小山田の園毛もび下とよめ

社より 武藏の國造尼武日命を初メニ社
はあはれは是れは神明帳に載る

一山を兼二山の裾まで向しの山をち小水降よりをばとち

曲折して屏風を建多ありある有古人これを屏風の石と

いふのあつた山のくがあるくありは残雪あり山紫の

ありくわれぬ小松のみと全ある山の高低遠近水は流の

藍のゆるがる後ゆくとも筆の及ぶ處にありて日野のあつり
の山に稍をさすありあめ斗の横おや〜る脊のわく三四
川原よりくの石あり強誰も拾ひ〜三ツ五ツゆとりゆき
川原蓬母草けり瞿曇か〜こふよりり〜川
下の方より橋をさるが見えこゝ歳の十月より水あせ〜のち
寒水よりちとあせぬやぶふ人の掛る也〜陸浦の故事
あひひら〜るま〜か〜や〜か〜は〜ちふ〜良かあ〜し
ぬれ〜も〜の遠くもやう〜る石の方よりた右にかけや
木榎並木五丁斗り〜ちよけや木の古木幹自〜ちて

称名寺の碑
の奉巻
記

うがふるがみ六株あり 古本より三層もあつた後より 左右の馬場を
観の大サは比まれば分の一あり
神祖寄附ありまは〜り野あり 一の鳥飛のやと北より
ふ小野の所牧玄ヶ窪か〜云ふよぬと云 往古の奥州道也
とぞ大門の並木の申程より人家の裏道を過〜る右串の
亭より〜る着ぬ木の道ま〜る北の方より近く昔の園分危寺
の跡也といふが見ゆ今ハ称名寺と云 近比往川浄陀佛の
也右碑極中が寺也 往近〜れど
いも又申の刻よりあれ〜りてなすなりぬる右串の亭あり
各海版〜るの傳るふま〜初喜の長〜ぬ日の申のさ〜りやも
ぬ〜る〜るを〜る角の刻より上言井〜るさ〜は凡〜

予此等好く禮子代田のあまう西の川一りさうの行ふ路さ
くもくもくは成の刻さ長やうふくさるる

武州惣社府中六所宮縁記

祭禮毎年

五月三日夜駒競同日神楽同五月神楽夜
入神樂神行六月廿日神樂七月七日神樂八月
朔日神樂神幸角の此外毎月恒例神幸

柝當社入皇十二代 景行天皇四十二年五月五日大己貴尊出

現鎮座勅許有之神殿御造立奎田と賜ふ相殿の之神と

中、伊勢丹尊素戔嗚尊瓊杵尊大宮賣命布

留大神是と稱して宗宮と奉中也御鎮座三弟凡一千

六百四年の星をと経康平五年六月廿日源賴義公八幡

太郎義家公奥州安部貞任宗任征伐とて御下向の

為遊社領五百石御利物法成寺武藏守中一統第詣日之盤
昌菱長六年閏原御合戦の夜御勝利の御祈念ありく
悉く御運其後大坂御出陣前御在国の惣社御神威
著為 在領とい同土年中社末社を不殘中建之久久保石見守
殿御奉行より同十九年大坂御出陣前神主徳波左衛門佐
御前著為 下御勝利の御祈禱法 御付 御出陣直
大坂御陣不返神主長登御守ホ執上り帰国倍々御
祈禱執行其後思多々も 御陳中より
権現様御黒布御古書法成寺

台徳院様よりも御利物御古書古度述法成寺今以神主
家の重宝多し毎年正月六日獨御禮中上 御代替り
夜 御目見時夜等御領法 御付大坂表悉く御勝利
御凱陣の上大門左右三百間余馬場武筋並木御寄
進扱又社地之佳吉より市有之処宮ヶ原大坂表度御
馬も尚不よりいふ何れも名馬多し御吉例の御馬市とて
此馬役中と初々諸家の馬役武家一統南部仙臺江戸
馬口方集り馬樞中奉府中町軒と並べ御目見
則

権現様御下知の御高札今以相立享保年中迄有るが
當時ハ体ニ成り於江戸御吉例の馬市と云ふに成り
此御付江戸馬口分取石町名主本傳右馬の管町名主
言本深き湯毎年此馬を遣元江寄進の馬場と云ふに
社願

権現様御宮へ系詣を御馬に毎年五人洋領いり
今以益悔怠相務へ本社九方

権現様御宮ハ

台徳院様御建立也又社

権現様御建立新遊ハ正保年中新焼其後

嚴有院様御再建久其和守殿に奉行あり是現在の社也

扱亦當社の大祭ハ年々四月廿五日神主殿初社役人品川

海ハ濱下牙也ハマノリミツキ五月五日迄掃帚湯毎五月三日

扱弱くとして中駒役の者拾式人拾式人の扱を燈火を

消し同扱子のりくく系詣見物余多有く同五日夜ハ社

の御樂神行この夜も焼を消し同扱の御務不る扱を

古例の式有く神主神馬のりてヤブサメ鑄馬と村三ヤブサメの夫ニ云

小太鼓を打出惣方供奉の燈テウチン灯タイミン松カハリセ竹カハリセ大鼓く

神行の當ふ川之と云々〜く還御ぬとある六日ハ
田桂の神事として年中の御供米と桂付る不浄と去り
清浄に作りたる其出来御田も矣也南ハ神奈川東ハ葛西
武蔵平小むさ〜中不及丑穀成物之類として廿穀持たる
惣として武蔵國申六日府中の御田桂とて神酒を造
らひしとある此布社傳の舊説盤多あれが累して荒増の由
由徳に記され奉右の如し

川崎平右衛門

原本頭書也
平右衛門文化七條平小吉傳記
川谷五内辰新着遠東史談

いれ武州府中の百姓あり

享保の御初改小余多の新田と開く凡五万石と云々玉川一帯為

成時 御成先の御用をけりる御用使と立上り

上の御意は夜〜連中代官と云 辰出と云初々奉右の未々民

間々ある府府の六本明神の中修復ありし小

公は平右衛門の御一ト云々随分門と修理せん事を嘆け上げ

せりよして其故を問せりよ平右衛門中て曰近く張成の

新加佛お不廻向院とて宗帳有り時類ひせりの上中野小

言高きせむふ則象と毎國橋のあつうまを人子後六又で城
と高きくんせ物と一傳りしハ六七十日のうちといへども
余多の穢を治傳ぬ今其穢を徳とまつる少く私欲を
くふるんふ件の門のぬきぬきなくまをいせむとていひ此
事減企つるもといは穢をつゝ宝事有るをいひこれと
とらとて此修理致あるんふ件の穢のぬきぬきとていひ
用とまゝ一室一くつへい修るふまをいひん事と也い
いふ也と

公其志の厚くすめりるをいひ一と宿られれ如く其事と
ゆゑ一あるやう平右衛門一と子その隨身門と修理す
實ハ件の穢も用はあつる程にあつるざりしむとていひ
ある田地の古性等少づの志とともいひ一むかれが
事あつるといひてあのがあつぬ村里とも米子穢よもて
よりいひがばさるぬ穢を治るこすあつぬむとていひ
を修く彼の修理をも事畢しむと見彼れ奇特の言へ
あるものいひぬ影田と開く事進ぐ余多あるをいひ終り
出代官と成る平右衛門是神傳の助けのいひぬとていひ
永く

公願事りその門の事ハ平右衛門の孫あるん
下よりこれと修理事とし今の府中ニ住まふ所の
平右衛門遠海初祖の平右衛門忠代迄と成付外は
あつて昔よりいづれ子孫相承繁栄栄光と
中川喜壽内記

又府中子孫助と云者有り是ハ平右衛門よりハ橋本
玉川 河成の時御用と申すは此の社ありて
今拂りて瑞福をいぬゆ其故を問バ
を初めその事より面目をいふは是るこれ社の事

もあつて人々物々も亦不
りて少くも窮乏城
候は御存て大名
曰上

六所大明神石鳥居照制札在之通

終

- 一 六所大明神境内ニ木木櫻不可伐取在馬場
- 一 土手極々苗木不可拔取事
- 一 飛住者若系諸々事火之用公認可仕事

北別表
三月再述

附社内にあつて樂書一切を廢せしむる事

一 社中外馬牽通を廢せしむる事

右之條を於遠背案可為曲奉

寛文七年四月廿一日

奉行

提

此布にあつて馬町立を奉

五月三日駒々々々々々九月晦日限るべし

此條此類を守りて若遠背の案にあつて可為曲奉

曲奉者也仍下知此件

月 日

奉行

一 府中馬市の案を司る下あ市やりの者世々つて再在候
を松儀式人扶持を修るる又松儀の地方を修め式人
扶持は淺草席米強り修るると云

中
日
本
國
立
文
書
館

日
本
文
書
館

内
閣
文
庫

156

内閣文庫

七 七	二 〇	九 三 〇	和 書
架	冊	號	類